



第三者意見

読みやすくわかりやすい報告書で、誠実さが伝わります。社会との対話など、昨年度の意見への取り組みも進めている様子に好感を持ちます。

さらなる改善に向けて、いくつかコメントします。

まず、4つの重要なテーマや、CO₂削減貢献度などの重要な指標は、社会の意識や社外の専門家の意見なども取り入れながら、独りよがりではない選び方・計算方法になるようにし、その選択や信頼性確保のプロセスも明示することを望みます。

実績の報告は、報告書の鍵です。位置づけの改善は評価しますが、さらに、数字だけでなく、自己評価と今後についても報告してください。PDCAの「C・A」には、結果の数字だけでなく、その結果を会社がどのように認識し、今後どうするつもりなのかも含まれます。

また、具体例の紹介の前に、全体像を伝えることが大事です。「環境リスクの低減」の報告なら、御社にとっての環境リスクにはどのようなものがあるのかという全容がわかってはじめて、具体的な取り組みの意義や意味が理解できるからです。

全体的にネガティブ情報がないため、透明性や信頼性に疑問を抱きます。できたことだけでなく、できていないことにどのようにチャレンジしていくのかもぜひ報告してください。そこにこそストーリーがあり、読者の共感を呼びます。「事業所やグループ会社の環境への取り組みや実績を業績評価に反映する」「再生可能エネルギーによる発電事業を推進し、2015年度には自社電力使用量のすべてをまかなう」などは、他社のモデルにもなるすばらしい取り組みです。報告書を通じて、そういった取り組みの社会価値や企業価値のさらなる創造と波及につなげることを期待します。

社会との対話の継続と今後のさらなる取り組みに期待しています。



幸せ経済社会研究所 所長
環境ジャーナリスト、翻訳家

枝廣 淳子(えだひろ じゅんこ)様

講演、執筆、企業のコンサルティングや異業種勉強会の主宰等、環境や持続可能な社会を軸に活動を展開。さまざまなセクターが対話と共創で問題解決を進められるよう、合意形成の場づくりやファシリテーターを務める。「つながり」と「対話」でしなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。

第三者意見を受けて



環境部 次長
小山 勝弘

枝廣様には当社グループの環境活動ならびに本レポートに対して貴重なご意見をいただき、心より御礼申し上げます。

枝廣様との意見交換会では、昨年度策定した中期環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム2015」において、重点戦略の一つに掲げた「再生可能エネルギーによる発電事業の推進」や新たに導入した「事業所環境業績評価」をはじめ、当社グループの多様な環境活動について大きな期待を寄せていただきました。私たちの計画の方向性が適切であるとの意を強くし、環境行動計画の完遂に向け邁進していきます。

一方で、ステークホルダーへの情報開示の観点からは、結果報告が重視され、取り組みの全体像や今後の方向性が見えにくいところご指摘いただきました。これは決してレポートだけの問題ではなく、環境マネジメントにおいて数字だけのチェック&アクションに陥っていたり、対応できていないことにどう取り組んでいくかの議論が十分ではないことの表れと受け止めています。これを機に今一度、社内のPDCAサイクルを再点検し、より実効性のある計画としていきます。また、長期ビジョンをどう具現化していくかについても、社内での議論にとどまらず、共創共生を基本姿勢に、社会との対話を通じて共に解を探りながら、着実な取り組みを進めてまいります。